

準備書の審査書(案)

No.		1	
発電所名(仮称)		(仮称)蒲野沢ウインドファーム	
事業者名		株式会社ユーラスエナジーホールディングス	
事業実施区域		青森県下北郡東通村蒲野沢地区	
事業 特 性	事業の内容	風力発電所設置事業 ・風力発電所出力:33,000kW (2,000~3,000kW×11基) ・風力発電機の台数:最大11基 ・ブレード直径:80~90m ・ブレード中心高さ:80~100m	
	工事の内容	・工事期間:試運転期間含め26ヶ月 ・造成・基礎工事:20台/日程度 ・据付工事:15台/日程度 ・電機・計装工事:6台/日程度 ・工事車両:1日最大20台程度(主に作業員移動用) ・運搬車両:風力発電機1基あたりトレーラー9台程度	
地環 域境 特監 性視 ・計 環画 、境 予 保測 全・ 措評 置価 ・結 果	大気	1. 現況	粉じん等については記載なし
		2. 保全	同上
		3. 監視	同上
		4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	同上
騒音 (低周波音含む)	騒音	1. 現況	青森県においては、「騒音に係る環境基準」、「航空機騒音に係る環境基準」、及び「新幹線鉄道騒音に係る環境基準」に関して類型指定を行っているが、東通村においては、いずれも指定がなされていない。 青森県では、用途地域に応じた規制地域及び基準値の指定を行っているが、東通村における指定はない。
		2. 保全	新設する風力発電機の設置位置を居住地域から1.7km以上離隔する。
		3. 監視	記載なし
		4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	①工事中:記載なし ②供用中 <騒音> 風力発電機の稼働に伴って発生する騒音は、対象事業実施区域に最も近い居住地域において31dB程度であり、般環境中の騒音レベルにおける「静かな住宅地の夜」に相当するレベルであると予測された。 本事業においては、風力発電機の設置位置を居住地域から1.7km以上離隔しており、これにより本事業に伴う騒音に係る環境影響は回避されているものと評価される。 <低周波> 記載なし
		1. 現況	青森県では、用途地域に応じた規制地域及び基準値の指定を行っているが、東通村における指定はない。

振動	2. 保全	記載なし
	3. 監視	同上
	4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	同上
	1. 現況	対象事業実施区域周辺においては、COD 等に関して「東通り海域」及び「下北半島北側海域」が「海域A」に、「尻屋岬港」が「海域B」にそれぞれ指定されている。また、環境基準の類型指定はなされていないが、BOD 等に関して小老部川に測定地点が設けられている。
水質	2. 保全	記載なし
	3. 監視	同上
	4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	同上
	1. 現況	記載なし
底質	2. 保全	同上
	3. 監視	同上
	4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	同上
	1. 現況	対象事業実施区域及びその周辺における地形の状況は、小起伏山地(片崎山山地)、丘陵地(砂子又丘陵)及び砂礫台地(田代台地)が大部分を占めており、対象事業実施区域はこれらに位置している。また、周辺の河川沿いには谷底平野が形成され、太平洋沿岸には南北方向に被覆砂丘(猿ヶ森砂丘地)が分布している。対象事業実施区域及びその周辺における地質の状況は、対象事業実施区域から北に片崎山層が、南には猿ヶ森層が、またそれらの周辺に砂子又層が分布しており、太平洋沿いには大規模な砂丘が形成されている。
地形・地質	2. 保全	記載なし
	3. 監視	同上
	4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	同上
	1. 現況	記載なし
風車の影(シャドーフリック)	2. 保全	記載なし
	3. 監視	記載なし
	4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	記載なし
	1. 現況	記載なし

(猛禽類、バードストライク含む)
動物

<p>1. 現況</p>	<p><希少猛禽類> 文献その他の資料調査では、ミサゴ、ハチクマ、オジロワシ、オオワシ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、ケアシノスリ、クマタカ、イヌワシ、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、コチョウゲンボウ、チョウゲンボウの16種の希少猛禽類が確認されており、このうち、ミサゴ、ハチクマ、オジロワシ、オオワシ、オオタカ、ハイタカ、クマタカ、ハヤブサの8種が現地調査においても確認されている。</p> <p><対象事業実施区域及びその周辺を営巣環境とする重要な種> 希少猛禽類以外の重要な種のうち、繁殖期に対象事業実施区域及びその周辺に生息環境を持つ種としては、樹林や草地を営巣環境とする種として、オシドリ、ウズラ、ヤマドリ、クイナ、バン、イカルチドリ、ヤマシギ、オオジシギ、アオバト、ジュウイチ、コノハズク、オオコノハズク、フクロウ、ヨタカ、ヤマセミ、アカショウビン、アリスイ、オオアカゲラ、セグロセキレイ、サンショウクイ、アカモズ、カヤクグリ、コマドリ、マミジロ、クロツグミ、サンコウチョウ、キバシリ、コジュリン、シマアオジ、ノジコ、クロジ、オオジュリン、イスカ、ホシガラスの34種が挙げられる。このうち、ヤマドリ、オオジシギ、アオバト、フクロウ、ヨタカ、ヤマセミ、オオアカゲラ、マミジロ、ノジコの9種は現地調査においても確認されている。</p> <p><越冬や渡り等により一時的に対象事業実施区域に出現する重要な種> 希少猛禽類以外の重要な種のうち、対象事業実施区域及びその周辺を越冬や渡り等により一時的に利用する種としては、チュウサギ、コクガン、マガン、ヒシクイ、シマアジ、ハシビロガモ、ビロードキンクロ、シノリガモ、コオリガモ、シマクイナ、ソリハシシギ、セイタカシギ、コアジサシ、オオセッカの14種が挙げられる。このうち、マガンとヒシクイは現地調査で確認されている。</p> <p><渡り鳥> 現地調査において、ガン・カモ・ハクチョウ類ではマガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、マガモの4種について、その他の鳥類ではトビ、オジロワシ、オオワシ、アマツバメ、ヒヨドリ、ツグミ、エナガ、シジュウカラ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、ウソ、イカルの13種について、対象事業実施区域及びその周辺で渡りと考えられる飛翔が確認された。</p> <p><哺乳類> 重要な哺乳類としては、文献その他の資料調査においてフジホオヒゲコウモリ、ニホンザル、ツキノワグマ、カモシカの4種が、現地調査においてはヒナコウモリ科の一種(ヒナコウモリあるいはヤマコウモリ)、ニホンザル、ムササビ、ツキノワグマ、カモシカの5種が確認されている。</p> <p><両生類・爬虫類> 重要な両生類としては、現地調査において、トウホクサンショウウオ、サンショウウオ属の一種、アカハライモリが確認された。</p> <p><昆虫類> 重要な昆虫類としては、文献その他の資料調査においてカラカネイトトンボやスジボソヤマキチョウ、カワラハンミョウ等の36種が確認された。</p>
<p>2. 保全</p>	<p>(a) 送電線の地下埋設 (b) ライトアップの抑制 (c) 樹木伐採の制限及び緑化 (d) 土砂流出防止策</p>
<p>3. 監視</p>	<p>記載なし</p>
<p>4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中</p>	<p>本事業においては、風力発電機の設置や搬入路の敷設に伴う改変面積が小さいこと、周辺には同様の環境が広がっていることなどから、事業の実施による動物の生息環境への影響は小さいと予測された。特に影響が懸念される鳥類の風力発電機への衝突に関しても、渡りルートが広範囲に分散していることや、定量的に算出した衝突率も低いことから、その頻度は少ないと予測されたが、不確実性が生じることから稼働後にバードストライクの有無を確認するための事後調査を実施する。適切な環境保全措置の実施及びバードストライクの有無を確認するための事後調査を実施することにより、本事業に伴う動物に係る環境影響は事業者の実行可能な範囲内で低減されているものと評価される。</p>
<p>1. 現況</p>	<p>選定された重要な種のうち、文献その他の資料調査で確認された種は28種、現地調査で確認された種は3種であった。</p> <p>○ ホロマンノコギリソウ 対象事業実施区域内の牧草地及び林縁部において、10地点で計約148株の生育が確認された。</p> <p>○ エビネ 対象事業実施区域内の樹林内において、16地点で計約134株の生育が確認された。</p> <p>○ サルメンエビネ 対象事業実施区域内の樹林内において、21地点で計50株の生育が確認された。</p> <p>○ エビネ属の一種 対象事業実施区域内の樹林内において、5地点で計15株の生育が確認された。</p>

植物	2. 保全	(a)植生の早期回復 (b)樹木伐採の制限 (c)土砂流出防止対策 (d)立ち入り制限 (e)ゴミ処理の徹底
	3. 監視	記載なし
	4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	本事業においては、風力発電機の設置や搬入路の敷設に伴う改変面積が小さいこと、改変区域に該当する植生は周辺にも広く分布していること等から、事業の実施による植物相及び植生への影響は小さいものと予測された。 重要な種についても、現地調査で確認された3種のうち、サルメンエビネ、エビネ属の一種については、生育地が改変区域から離れている。ホロマンノコギリソウ、エビネについては、生育地が改変区域もしくはその近辺であるものの、改変は風力発電機の設置箇所及び一部の搬入路に限定されること、周辺にも同様の環境が広がっていることにより、生育個体、生育環境がわずかに減少する可能性があるものの、消失には至らないものと予測された。 さらに適切な環境保全措置を実施することにより、本事業に伴う植物に係る環境影響は事業者の実行可能な範囲内で回避・低減されているものと評価される。
生態系	1. 現況	記載なし
	2. 保全	同上
	3. 監視	同上
	4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	同上
景観	1. 現況	対象事業実施区域は、緑豊かな下北丘陵上に計画されている。 東通村役場は、対象事業実施区域の西に位置する。庁舎の他にも多くの施設が集中する東通村の中心地であり、利用者の視点に立って、景観特性の変化を予測・評価することに適した眺望点となっている。 猿ヶ森地区(2地点)は、対象事業実施区域の東に位置する居住地域であり、蒲野沢地区は、対象事業実施区域の西に位置する居住地域である。これらの地点については、生活者の視点に立って、景観特性の変化を予測・評価することに適した視点場となっている。
	2. 保全	新設する風力発電機の設置位置を居住地域から2 km以上離隔する。
	3. 監視	記載なし
	4. 予測・評価	(a) 環境影響の回避、低減に係る評価 対象事業実施区域周辺の居住地域からの眺望においても、見る者によっては違和感を覚える可能性があるものの、風力発電機の色が空や雲の色になじみやすく、また細い柱状であることから、その程度は小さいものと考えられる。 さらに風力発電機の設置位置を居住地域から2 km以上離隔したことにより、本事業に伴う景観に係る環境影響は事業者の実行可能な範囲内で低減されているものと評価される。 (b) 国又は地方公共団体による基準又は目標との整合性の検討 本事業においては風力発電機の外装は灰白色に塗装することとしており、周囲から浮き立つような印象は与えにくいものと考えられることから、基準に定める「周辺景観と調和する色彩への配慮」に整合するものと評価される。また、背景の空や雲になじみやすい色彩の細い柱状であることや、一定の範囲内にまとまって視認されることなどから、基準に定める「自然景観と調和する規模及び形態意匠への配慮」「全体としてまとまりのある形態意匠」に整合するものと評価される。
触れ合いの	1. 現況	ヒバの埋没林 東通村の太平洋沿岸は、約15km にわたり猿ヶ森砂丘が続いており、数千年前から断続的に海から砂が打ち上げられ、立ち枯れたヒバは飛砂に埋もれた。その一部が猿ヶ森ヒバの埋没林として地表に姿を現している。12世紀頃に埋まったものとされ、繁った木々と砂から現れたヒバが調和した不思議な光景をとっている。
	2. 保全	記載なし

	活動の場	3. 監視	記載なし	
		4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	記載なし	
	廃棄物等	1. 現況	記載なし	
		2. 保全	記載なし	
		3. 監視	記載なし	
		4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	記載なし	
	(教育・医療・福祉施設の配置状況、公園 その他 指定等環境保全地域区域指定状況等) 既設風力設置状況等	1. 現況	「森林法」に基づく保安林の指定状況は、対象事業実施区域の一部が土砂流出防備保安林及び水源かん養保安林に指定されている。	
		2. 保全	記載なし	
		3. 監視	記載なし	
		4. 予測・評価 ①工事中 ②供用中	記載なし	
	事後調査		鳥類のブレード、タワーへの接近・接触が生じる頻度は少ないものと評価したが、予測には不確実性も伴っているため、バードストライクの有無を確認する。	
	その他特記事項		特になし	
住民意見・事業者見解・自治体意見・環境大臣意見 (別紙参照)		環境の保全の見地からの意見： 件 (別紙のとおり)		
審査結果		環境審査顧問会風力部会の御意見を聞いたうえで、環境の保全について適正な配慮がなされることを確保するための意見を記載。		
備考		本審査書は事業者から届出された環境影響評価準備書を基に作成したものである。		